

# 3年美術科学習の手引き

## 【教科の目標】ものを見つめる目、何かを感じる心、自分の思いを表現する。

皆さんはこれまで絵画・彫刻・デザイン・鑑賞の分野で様々な制作に取り組んできました。絵画では自画像、彫刻では、人体塑像、工芸では木工や陶芸に取り組みました。鑑賞では様々な時代の世界中の作家たちの作品を味わいました。

3年生はその集大成として、水墨画(修学旅行で行く奈良や京都の寺院や仏像を描きます)「魅力を伝えるパッケージ」(社会に発信)「マイ箸を造ろう」(漆塗りに挑戦)に取り組んでいきます。

### 1. 授業への取り組み方〔約束〕

#### ①授業に出る。

実技教科ですから、授業に出て学習や制作に取り組むことが大切です。出席率は評価に反映されます。

#### ②用意を必ず持ってくる。

教科書(3冊)・クロッキー帳・新聞紙1枚

そのほか特別な用意はそのつど連絡します。すべての持ち物には名前をはっきりと書いて下さい。

授業の服装は体操着・ジャージで受けてください。

#### ③時間を守る。

特別教室で制作するので、時間に遅れずに移動してください。休み時間は制作の準備をして待てるようにしましょう。

#### ④教室や用具を使用する約束を守る。

そのつど道具の使い方を説明しますが、安全のための約束は必ず守ってください。

### 2. 制作に当たって・よい作品を作るには〔家庭学習について〕

ふだんの生活から美しいものや身近なものよさに気づき味わう姿勢をもちましょう。自分が感じたことやそこから考えたことを大切にしていきましょう。美術は作品を通して人と出会う時間でもあります。仲間の作品のよさに気づき、認め合い吸収しましょう。

週に一度の教科です。見通しをもって計画的に制作しましょう。もしお休みしたときは、進んだ分の確認をして自分で調整しましょう。

### 3. 評価の観点と評価の方法について

美術科の各学年の年間指導計画における評価規準に基づいて、三つの観点〔知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度〕を次のような場面や方法で評価し、それに基づいて総合的な評定〔通知票につく5段階〕を算出しています。

#### 【評価の観点の趣旨】

##### ① 知識・技能の評価について

- ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。
- ・材料や用具の活かし方などを身に着け、意図に応じて工夫して表わしている。
- ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表わしている。

##### ② 思考・判断・表現の能力

- ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成をくふうし、心豊かに表現する構想を練っている。

##### ③ 主体的に学習に取り組む態度

- ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている

#### 【日々の授業の取り組み】

日々の授業の取組状況です。1回1回の授業を大切に、楽しみながら意欲的に取り組むことができているかを、授業中の様子や制作カードや提出物〔計画と記録、感想、鑑賞カード等〕で評価します。用具の用意〔持ち物確認〕や、作業の準備片付けの仕方なども評価の対象になります。

#### 【作品制作の取組】

構想〔アイデアスケッチ〕の段階、制作段階、完成後の互いの作品鑑賞など様々な段階に応じた取組を評価します。指示された方法で作品を提出し、教師のチェックを受けないと成績に加算されませんので、十分に注意してください。作品に名前がついていないと、成績に加算されないの注意してください。

No.	評価の観点 評価資料と 評価の把握の手だて	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	【授業の取り組み】 準備・片付け、持ち物確認、授業の取り組み内容、学習全般への意欲	△	○	◎
		皆さんの日々の授業の活動で示す様子(取り組む内容、行動、発言など)を毎時間観察記録しています。1時間の中で全員の活動を記録することは難しいので、「積極的に活動している」「必要な用具を準備していない」など、特徴的なことを観察しています。		

2	[作品] アイデアスケッチ、途中経過、完成作品	○	◎	○
		活動を通して制作している作品を見ます。評価するに当たり、技術面の出来映えのよさだけでなく、途中段階での工夫や発想のユニークさなども参考にしています。作品は日々の授業の積み重ねですので、最後まで丁寧に仕上げるのが大切です。予告して途中課題を評価することもあります。		
3	[感想] レポート、作品の感想など	○	◎	◎
		完成後のまとめや感想などを書いてもらいます。必要に応じてそのつど書き込んできたか、学習のまとめがしっかりとできているかを見ます。文章で自分の思いを表すので、文字の丁寧さや内容の充実度は主体的に学習に取り組む態度、自己の表現に対する考え方やまとめ方の工夫は、思考・判断・表現で読みとることができます。		
4	[制作カード] 制作・記録、自己評価カード	○	◎	◎
		制作のための学習活動の記録を見ます。必要に応じてそのつど書き込んできたか、学習のまとめがしっかりとできているかを見ます。一人ひとりの考え方の深まりや、技術の高まり、進み具合を実感する方法として利用します。		
5	鑑賞	○	◎	○
		鑑賞の時間や作品制作、発表での感想、教科書からの出題で、個々の表現の違いに興味・関心をもって、意欲的に美術作品に触れているかを見ます。		
◎○△については、それぞれの観点にかかわる重み付けをあらわしています。				

#### 4. 年間の授業計画 ※題材は、生徒の実態や制作の流れによっては変更する場合があります。

学期	題材名 領域	学習のねらい	学習内容 材料用具技法など
1	水墨画を描こう 「折りの造形」	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔や手の表情がもたらす効果による全体のイメージなどを捉え、仏像彫刻の特色や良さや美しさに関心を持ち、作者の意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める。</li> <li>墨などで表すことに関心を持ち、表わしたいものやイメージを基に主題を生み出し、濃淡や線などの効果を考え表現の構想を練り、墨の特性を生かして創造的に絵で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を鑑賞し、顔や手の表情がもたらす効果や、形や材料、質感、空間などの造形的なよさや美しさを感じ取る。</li> <li>時代や種類、作者による特徴などを理解し、作品から受ける思いについて意見を述べ合う。</li> <li>墨などの性質や技法に触れながら、表わしたいもののイメージから主題を生み出す。</li> <li>主題を基に、濃淡や線などの効果を考え表現の構想を練り、工夫して表わす。</li> </ul>
	日本の美意識 「マイ箸を造ろう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>木肌の持つ温かさや優しい感触を生かし、用途や機能と美しさなどを考え、木の生かし方や用具などを工夫して制作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木の持つ温かさや木肌の美しさを味わう。</li> <li>使いやすさと美しさを兼ね備えたデザインを構想する。</li> <li>木の特性を理解して、加工方法や用具など適切に考えながら見通しをもって制作する。</li> <li>お互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合う。</li> </ul>
2	魅力を伝えるパッケージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品の特徴や魅力を表現するパッケージのデザインを学習することで「伝達」はじめ「構成や装飾」「用途や機能」等の目的や条件を基にして、これまでの学習してきたことを総合的に生かして活動する。</li> <li>形や色彩のみではなく材料や質感についても吟味しながら、どのようにすれば多くの人に商品のイメージや魅力を伝えることができるのか創意工夫するとともに、美術やデザインが担う社会的な役割について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パッケージデザインの働きについて考え、その工夫点を話し合う。</li> <li>多くの人に製品の魅力が伝わるようなパッケージを発想し形や色彩の効果などを考え構想を練る。</li> <li>材料や用具の特性を生かし、制作の手順など総合的に考え見通しをもってパッケージのデザインをする。</li> <li>作者の意図を考え、造形的な美しさなどを味わい、暮らしを豊かにするデザインについて話し合う。</li> </ul>
3	ゲルニカは語る	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色彩、構図や描き方、制作過程から、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の見方や考え方を味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品から、時代背景や作者の心情などを読み解き、美術の持つ力について意見を交わす。</li> <li>作品を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、作品から受ける思いについて意見を述べ合う。</li> </ul>
	思いの形—私の心の中にあるもの—	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ表に出していない心の中にある様々な想いから発想し、彫刻にすることを通して、自己を見つめるとともに抽象的な形を作り出す。形や材料から、作者の心情を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な作品を鑑賞する。</li> <li>材料に触りながら発想する。</li> <li>木材や粘土、針金等の材料の特性を考え主題に合うものを選び制作する。作品の形態が主題に迫っているか形と量感、色や空間も感覚的にじっくりくるか判断しながら制作す</li> </ul>

			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>•表したい思いは伏せて作品の色や形からどんな思いを表しているか想像して鑑賞する。振り返りを大切にし、なぜこのような形になったのか再度自分を見つめなおす。</li></ul>
--	--	--	--